

2014.11.20

JADCI NEWS No.41



The Japanese Association for Developmental & Comparative Immunology

<http://plaza.umin.ac.jp/~jadci/>

目次

- ・「会長再任のご挨拶」 笠原 正典 2
- ・「学会ホームページ管理を引き継いで」 佐々木 年則 3
- ・「古田賞を受賞させていただきまして感謝いたします」 舩内 義希 3
- ・「日本比較免疫学会第 26 回学術集会を終えて」 倉田 祥一郎 5
- ・「日本比較免疫学会第 27 回学術集会のお知らせ」 7
- ・事務局より（事務局からのご連絡とお願い） 8
- ・平成 26 年度 日本比較免疫学会総会議事録 9

日本比較免疫学会 役員（2014. 9～2016. 8）

会長：笠原 正典（北海道大学）

副会長：中尾 実樹（九州大学）

庶務・会計：倉田 祥一郎（東北大学）、補助役員 矢野 環（東北大学）

学術集会担当：丸山 正（海洋研究開発機構）、末武 弘章（福井県立大学）

会計監査：中西 照幸（日本大学）、川畑 俊一郎（九州大学）

広報担当：飯島 亮介（帝京大学）、佐々木 年則（感染研）

発行者：日本比較免疫学会長 笠原 正典

事務局：庶務担当 倉田 祥一郎

住所 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3

東北大学大学院 薬学研究科 生命機能解析学分野

事務局 e-mail: jadci2office@gmail.com

電話 022-795-4555（ダイヤルイン） FAX 022-795-6802

郵便振替 口座番号 01730-9-80586

加入者名 日本比較免疫学会

学会ホームページ <http://plaza.umin.ac.jp/~jadci/>

会長再任のご挨拶

日本比較免疫学会会長 笠原 正典
北海道大学大学院医学研究科 分子病理学分野

会員の皆様には、常日頃、ご支援、ご協力を賜りありがとうございます。この度、日本比較免疫学会会長に再任されました。任期の2年間、本学会の更なる発展のために微力を尽くしたいと考えておりますので、引き続きご支援の程よろしくお願い申し上げます。

今年は、倉田祥一郎先生のご尽力により、本学会の学術集会と日本生体防御学会の学術総会が同一会場で開催されました。両学会の会員が三日間に渡り一堂に会して討論に参加し、交流を深めることができました。両学会のパワーが結集されたため、内容的に非常に充実した大会となり、日本生体防御学会会長の川上和義先生をはじめとして、出席者の皆様から大変良かったという声を多数お聞きました。はじめての試みではありましたが、大成功であったと思います。国内他学会との連携強化は、本学会の課題の一つですが、お陰様で大きな成果を挙げることができました。倉田先生にはこの場をお借りして改めて御礼申し上げます。

懸案の比較三学会合同シンポジウムのあり方に関しては、本年5月に日本比較生理生化学会会長の神崎亮平先生、日本比較内分泌学会会長の竹井祥郎先生にお会いし協議しました。その結果、現状の形での持ち回り開催は行わず、代わりに学術集会の同時開催を検討していくことで意見の一致をみました。しかしながら、諸般

の事情により、今回は具体的な合同大会開催案の策定にはいたりませんでした。今後の課題としたいと思います。

御存じのとおり、本年5月13日に古田恵美子名誉会長が逝去されました。先生は平成10年から8年間、学会長として本会の運営と発展に尽くされたほか、平成18年には私財を擲って、古田賞、古田奨励賞を創設されました。先生の献身的なご尽力と熱い情熱がなければ、今日みるような学会の発展はなかったといっても過言ではないでしょう。先生のご功績に深甚なる敬意と感謝の意を表しますとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。皆様にはすでに学術集会総会のお伝えしましたが、先生はご遺志により学会に多額の寄附をされました。生前、この基金は若手の育成に役だてて欲しいとおっしゃっていましたので、新たに「古田トラベルアワード」を設け、若手研究者の国際比較免疫学会への参加を支援したいと考えております。

前回の会長就任時にも述べさせていただきましたが、学会の活力は、会員がどれだけ魅力的な研究を行なっているかによって決まります。質の高い魅力的な研究が行なわれれば、おのずと若い人が集まり、学会の活性化がもたらされるでしょう。今後とも学会の活性化と若い会員の育成を重点目標に掲げ努力してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

学会ホームページ管理を引き継いで

広報担当 佐々木 年則

国立感染症研究所昆虫医科学部

前任の広瀬先生のご尽力で、そのままホームページ管理をすることができました。ここにお礼申し上げます。ホームページの管理は、初めての体験でして新鮮ではありますが、難しさを実感しています。ITについてそれほど詳しくないため、皆様のサポートをお願いいたします。学会ホームページに対する社会的ニーズは、高まっています。

さて、今回執筆を依頼され、以前の役員の方の就任挨拶を見直しておりました。これは、私個人の構想として実現可能かどうかまだわかりませんが考えてみました。一つ目は、会員の業績を掲載したい。二つ目は、メーリングリストの検討をしたい。三つ目は、他学会からの情報を掲載したい。四つ目は、一般の人にもわかるページを掲載したい。以上です。一つ目の会員の業績を掲載することによって、会員はもとよ

り非会員にも日本比較免疫学会を周知してもらい、日本比較免疫学会の認識を広めることができます。二つ目のメーリングリストは、もう既に会員宛にメールが流れています。どのようなシステムでメールが流れているかわかりませんが、会員宛に気軽にメールを送信できればと考えています。三つ目は、他学会からの情報を掲載したいというのは、比較三学会以外に有益となる情報を共有できればと考えています。最後に、一般の人にもわかるページを掲載したいと考えています。社会的にも成果等を一般国民に還元することが求められています。なるべくわかりやすく、図表等を使えたらいいと考えています。

何せ素人ですので、実現可能かどうかわかりませんが、皆様のご協力をお願いいたします。

§
§

古田奨励賞を受賞させていただきまして感謝いたします

靱内 義希

東北大学大学院薬学研究科生命機能解析学分野

この度、「NF- κ B 経路の活性化を制御する新規因子コシャペロン CG8863/DnaJA3」という題目の口頭発表で、日本比較免疫学会古田奨励賞を受賞させて頂きました、東北大学大学院薬学研究科の靱内義希と申します。本受賞にあたりまして、日本比較免疫

学会会長の笠原正典先生をはじめ、選考委員の先生方、大会事務局の先生方、学会運営に携わって頂きました会員の皆様方、そして古田奨励賞の創設者であり、本年の5月に逝去されました故古田恵美子名誉会長に深く感謝申し上げます。

私は、比較免疫学会学術集会は今回が初参加であり、また学術集会での口頭発表自体も今回が初めての機会でありましたので、発表前は尋常でない緊張感に襲われておりました。しかし、発表中は耳を傾けていただけた皆様のおかげで楽しみながら自分の研究を紹介出来たように思います。また、発表後は多数の先生方から鋭いご意見やご質問を頂き、自分の未熟さを痛感すると共に、全ての議論が今後の研究方針の参考になるものばかりで、多くの方々に暖かくご指導をいただけているように感じました。そして、最終的に古田奨励賞という名誉と伝統のあるすばらしい賞をいただけたことは、今現在の私の小さな自信と大きなモチベーションになっており、また今後の研究を進めるにあたり、心の拠り所の一つになるであろうことを確信しております。

さて、私は NF- κ B シグナル伝達経路の新規制御因子に注目した研究を行っております。NF- κ B は炎症性サイトカインをはじめとする様々な因子の発現を担う転写因子であり、自然免疫応答において中心的な役割を担っています。そのシグナル伝達経路は受容体から仲介因子を含めて、生物間で高度に保存されており、実際にヒトの NF- κ B 経路の 1 つである TLR 経路はショウジョウバエの NF- κ B 経路である Toll 経路の発見が契機となり、研究が大きく進展したという背景があります。私たちの研究室では、こ

の哺乳類にまで保存された NF- κ B 経路を有するショウジョウバエを用いた、新規自然免疫活性化因子を探索する過剰発現スクリーニング系を確立しており、NF- κ B 経路によって発現が制御されている抗菌ペプチド Diptericin の発現を誘導出来る因子として CG8863 を同定しております。CG8863 のノックダウンを行ったショウジョウバエ個体は、グラム陰性菌感染後の生存率や Diptericin 発現量が顕著に低下します。また、CG8863 の哺乳類ホモログと考えられる DnaJA3 に関しても、ヒト由来の培養細胞系におけるノックダウンによって、NF- κ B の活性化が抑制されること、また NF- κ B の抑制分子である I κ B のリン酸化およびそれに伴う分解が抑制されることが示唆されています。このように、CG8863/DnaJA3 による NF- κ B 経路の制御は生物間で共通に存在する機構である可能性が見えてきており、まさに生命の普遍的な原理の一端に迫るような、魅力的な研究に取り組んでいると感じています。

最後になりましたが、本研究を進められましたのは親身にご指導、ご鞭撻を賜りました倉田祥一郎先生をはじめ、共に研究に励むメンバーや常に支えてくれる家族のおかげであります。周囲に対する感謝の気持ちを忘れずに、今後も研究に精進していく所存です。JADCI の皆様も、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

日本比較免疫学会第 26 回学術集会を終えて

倉田 祥一郎

第 26 回学術集会長

東北大学大学院薬学研究科

日本比較免疫学会第 26 回学術集会を、平成 26 年 7 月 9～11 日の日程で、仙台市の東北大学片平さくらホールにて開催いたしました。一般演題には合計 41 題の応募をいただき、参加者は 107 名の事前登録参加者と 9 名の当日参加者の計 116 名でした。遠方よりご参加いただきました方々に改めまして深く感謝申し上げます。

7 月 10 日に開催しました総会では、まず本年 5 月 13 日に逝去された本学会名誉会長故古田恵美子先生に弔意を表して黙祷を捧げ、古田恵美子先生追悼文集を発行することが決定されました。それに先立ち 7 月 9 日に、笠原正典会長の司会で、「故古田恵美子先生メモリアルセッション」も開催されました。

集会は、第 25 回日本生体防御学会学術総会と同じ会場で連続して開催いたしました。両学会共に、四半世紀にわたる長い歴史を持ち、我が国の生体防御研究をリードしてきたにもかかわらず、これまで両学会員が一堂に会して議論し交流を深める機会はありませんでした。今回、それぞれの集会の参加者が、両方の集会に参加することで、多様性に富む演題発表となり、またきわめて活発な議論がなされました。本学術集会を契機として、両学会が相互に活性化し合い、我が国の比較免疫・生体防御研究に新たな潮流と展開が引き起こされるものと期

待しています。

特別講演では、韓国ソウル大学教授の Won-Jae Lee 先生に「Gut-microbe symbiosis and dysbiosis: A view from Drosophila」と題して、腸内細菌と腸管免疫の関係について最新の知見をお話いただきました。シンポジウム「生体防御を眺める視点」では、これまでに古田賞を受賞されている本学会を代表する 2 名の先生方、日本生体防御学会奨励賞を受賞されている新進気鋭の 3 名の先生方から、それぞれの視点で生体防御を熱く語って頂きました。日本生体防御学会と感染病態研究フロンティアとの合同シンポジウムとして開催しました「生体防御の基礎研究と臨床との接点」では、感染病態とその分子機構について第一線でご活躍の 4 名の先生方にご発表頂きました。若手研究者育成の場として、「生体防御若手研究者シンポジウム」を設け、一般演題の中から選りすぐった 5 名の若手研究者にご発表頂きました。いずれも優れた研究成果であり、次世代の比較免疫学・生体防御学を担う若手研究者として大きく飛躍していただけるものと確信しています。古田奨励賞は、東北大学大学院薬学研究科の柊内義希氏が受賞いたしました。今回の栄えある受賞を糧とされ、柊内氏の研究がますます発展することを期待しております。

本集会では、多岐にわたる研究発表に対

して活発な議論がなされ、大変有意義な集会になりました。これも一重に、ご参加頂きました皆様の熱意とお力添えの賜物であります。ここに心より御礼と感謝を申し上げ

げます。今後とも、日本比較免疫学会のさらなる発展に向けてご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

JADCI-JSHDR2014 集合写真



第 27 回学術集会のご案内

宮台俊明

第 27 回学術集会長

福井県立大学海洋生物資源学部

第27回の学術集会は福井県の小浜で開催します。小浜がある若狭地方からは古くは飛鳥時代から魚介類を都に運んだ歴史があり、御食国（みけつくに）と呼ばれています。現在ではトラフグ養殖が行われており、本研究室でもトラフグを用いて免疫の研究を行っています。魚類養殖は感染症との闘いでしたが、ワクチンの普及によって魚病被害は大きく減少しました。しかし、寄生虫に対するワクチンは開発されてい

ないため、寄生虫に対する免疫機構を知る必要に迫られています。そこで、今回は魚類寄生虫を長年に亘って研究されている横山博博士を講師としてお招きして、特別講演を開催します。さらに、寄生虫免疫と題したシンポジウムを企画しました。医学、獣医学、魚病学など幅広い視点から寄生虫免疫に迫っていきたいと考えています。皆様奮って小浜の地へ足を運んでいただきますよう、お待ち申し上げております。

第27回日本比較免疫学会学術集会

会期：平成27年（2015年）8月21日（金）～23日（日）

会場：福井県立大学 交流センター（福井県小浜市学園町1-1）

I．特別講演

横山博（東京大学大学院農学生命科学研究科魚病学研究室）「魚類の粘液胞子虫（仮題）」

II．シンポジウム

寄生虫免疫（仮題）

III．一般演題

演題締め切り：平成27年6月22日（月）必着

IV．懇親会

平成 27 年 8 月 22 日（土）当日のプログラム終了後、交流センター2F「Kitchen Boo」にて開催予定

§

§

事務局からのお知らせとお願い

古田トラベルアワード（国際比較免疫学会参加補助）の創設について

笠原会長のご挨拶にありますように、故古田恵美子名誉会長から学会へ多額のご寄付があり、新たに「古田トラベルアワード」を設け、若手研究者の国際比較免疫学会 (ISDCI) への参加を支援することになりました。対象となる学会は国際比較免疫学会に限定し、1 名に 10 万円の支援を行います。第 13 回国際比較免疫学会が 2015 年 6 月 28 日から 7 月 3 日までスペインのムルシアで開催されます。つきましては、来年度の古田賞の募集と同時に古田トラベルアワードの募集を行います。応募締め切りは平成 27 年 4 月末を予定しております。若手研究者の方々はふるってご応募下さい。

第 28 回学術集会の開催予定

会期：平成 28 年未定

会場：未定

学術集会長：和合 治久 先生（埼玉医科大学）

学術集会講演要旨集バックナンバーの公開

第25回総会において、個人情報を除いて過去の学術集会の要旨集をWEB上で公開することが承認されました。<http://plaza.umin.ac.jp/%7Ejadci/styled-13/index.html>で公開しております。

所属・住所が変わったら至急ご連絡を

所属や住所に変更が生じた場合には、学会事務局まで至急ご連絡下さい。E-mail か Fax をお願いいたします。書式は特にありませんので、下記の情報を事務局までご連絡下さい。

氏名、住所、所属、電話/Fax 番号、メールアドレス

News へのご寄稿を募集しております

エッセイ、学会参加記、JADCI へのご意見・ご提言などをお待ちいたします。事務局までお寄せ下さい。また、News を充実させるため、その構成や編集についてのご意見も歓迎いたします。

新会員の入会を歓迎いたします

皆様のお近くに、比較免疫学にご興味の方がおられましたら、本学会への入会をぜひともお勧めいただけますようお願い申し上げます。電子メールで下記の情報を事務局までお知らせ下さい。

事務局メールアドレス：jadci2office@gmail.com

年会費（5000 円、入会金なし）の振替用紙を郵送いたします。

1. 氏名
2. 氏名（ローマ字）
3. 所属
4. 連絡先（所属先か自宅かを明記して下さい）
郵便番号・住所・電話/Fax 番号
5. E-mail アドレス
6. 専門分野
7. 学生会員の場合は、指導教員の名前

§
§

平成 26 年度 日本比較免疫学会総会議事録

開催日時：平成 26 年 7 月 10 日(木)13 時 00 分?13 時 25 分

場所：東北大学片平さくらホール 2 階

議長：笠原正典会長

黙祷

故古田恵美子先生に弔意を表して黙祷を捧げた。

審議事項

1. 日本比較免疫学会名誉会長古田恵美子先生追悼文集の発行について（笠原）
中村弘明先生、和合治久先生に編集委員をお願いして、発行する。寄稿も受け付ける。
2. 第 28 回学術集会について（笠原）
和合治久先生（埼玉医科大学）が大会長をお引き受けくださった。和合先生からご挨拶があった。

3. 経理状況（決算案と予算案）について

(1) 平成 25 年度会計報告・監査報告について（笠原）

平成 25 年度の決算報告案がスクリーンで示され、資料 1 が説明された。

川畑俊一郎、中西照幸両会計監査役員の監査により会計は正確、適正に処理されていることを確認した旨が報告された（川畑）。質疑はなく、総会で承認された。

日本比較免疫学会 平成25年度決算報告

資料1

金額(円) 備考				
収入	1 前年度繰越金	通帳振込	1,244,397	
		現金	31,798	
	2 年会費	平成25年度	285,000	一般会費 57 名(5,000円)
			6,000	学生会費 2 名(3,000円)
		平成24年度	45,000	一般会費 9 名(5,000円)
			0	学生会費 0 名(3,000円)
	3 その他	利子	121	
小計			1,612,316	
支出	4 印刷費		157,500	学術集会要旨集・会員名簿
	5 学術集会経費		100,000	
	6 旅費		49,940	
	7 通信費・配送費		50,783	切手・メール便・宅急便
	8 文具代		6,937	事務用品
	9 振込手数料		1,550	
	10 その他		4,800	学術集会役員弁当代
小計			371,510	

平成26年度繰越金 1,240,806 円

(2) 平成 26 年度中間報告・予算について（笠原）

平成 26 年度予算案（資料 2）がスクリーンで示され、内容について総会で承認された。

収入

前年度より繰越	1,240,806
一般会費(5000円× 93 名)	465,000
学生会費(3000円× 7 名)	21,000
合計	1,726,806

支出

振替口座手数料・振込み手数料	10,000
第26回学術集会補助 (これまでの講演要旨印刷経費を含む)	400,000
古田先生追悼文集発行	100,000
通信費・配送費	50,000
文具代	10,000
雑費	50,000
予備費	100,000
次年度への繰越し	1,006,806
合計	1,726,806

4. その他

特になし。

報告事項

1. 会長選挙について（笠原）

会長選挙の開票を平成 26 年 5 月 14 日、東北大学農学部高橋計介先生立ち会いの下事務局にて開票。有効投票数 27 のうち得票数の最も多かった笠原正典先生（22 票）を次期会長とすることが報告された。

2. 会員の動向について（笠原）

3 年間未納の会員の自動退会にともない、会員数 113 名（平成 26 年 7 月 3 日現在）、会費納入率 47.0%となったことが報告された。

3. 第26回学術集会について（倉田）

事前登録90名、当日参加4名、懇親会参加100名前後であることが報告された。

4. 平成26年度日本比較免疫学会古田賞・古田奨励賞について（笠原）

古田賞：応募なし

古田奨励賞：10題の応募。初内義希氏（東北大学大学院薬学研究科）が受賞。

5. 次期学術集会（第27回）準備状況について（笠原）

次期学術集会長の福井県立大の宮台俊明先生からご挨拶があった。

6. 次期役員について（笠原）

平成26年9月よりの次期役員について報告があった。

日本比較免疫学会 次期役員		
役員名	氏 名	所 属
会 長	笠原 正典	北海道大学大学院医学研究科分子病理学分野
副会長	中尾 実樹	九州大学大学院農学研究院
庶務・会計	倉田 祥一朗	東北大学大学院薬学研究科
（補助役員）	矢野 環	東北大学大学院薬学研究科
学術集会担当	丸山 正	独立行政法人海洋研究開発機構海洋生態・環境プログラム
	末武 弘章	福井県立大学海洋生物資源学部
会計監査	中西 照幸	日本大学生物資源科学部獣医学科魚病学研究室
	川畑 俊一郎	九州大学大学院理学研究院生物科学部門
広報担当	飯島 亮介	帝京大学薬学部医療薬学講座生体防御学研究室
	佐々木 年則	国立感染症研究所昆虫医科学部第二室

7. 比較三学会合同事業のありかたについて（笠原）

比較三学会の合同シンポジウムについては中止することになった。その代わりとしての合同大会開催については、比較免疫学会役員会としては異論なしであるが、他学会との調整が必要なため、進展があり次第、報告をしたいと笠原会長から報告があった。

8. その他

特になし。